

## 令和 3 年度国立大学図書館協会賞審査結果報告

1. 応募区分 : 図書館活動における功績
2. 対象者 : 九州大学附属図書館学術サポート課
3. 件名 : 図書館 TA(Cuter)と協働した学習支援活動による図書館サービスの高度化
4. 結果 : 採択
5. 理由 : 本件は、九州大学附属図書館が実施する、大学院生の図書館 TA(Cuter)と図書館職員の協働による学習支援推進活動である。

九州大学附属図書館では、学内公募型プログラムにより平成 24 年 3 月に「図書館学習サポーター(Cuter)」の活動を開始したが、プログラム終了後も取り組みと成果を引き継ぐために平成 30 年に事務部改組による課の新設および研究開発室への WG 設置により、図書館 TA と協働した学習支援に組織的に取り組む体制を確立した。令和元年には、九州大学の新 TA 制度で図書館 TA が「アドバンスト・ティーチング・アシスタント」に位置付けられている。活動財源の確保についても、大学執行部への粘り強い交渉により全学の TA 経費から大部分が措置されている。この体制の下、図書館および図書館職員が TA の活動支援を軸に広範な活動を行っている。それらは、中央、医学、理系、芸工の 4 館で実施されており、留学生も積極的に活用するなど、多様性に対応して展開されている。結果として、令和元年度以降、TA が作成した学習ガイドへのアクセス数増加や、講習会受講者数・学習相談件数の大幅増加、高い受講者満足度などの成果を上げた。

大学図書館における TA との協働による学習支援は、各大学において実施されている活動であるが、本件は、前述の通り、組織・財源を確立・強化し、確かな活動基盤を構築して事業としての継続性を高め、同種の事例を上回る活動の体制、範囲、内容を実現しており、特に傑出した成果として高く評価したい。また、これらを背景として、コロナ禍において図書館 TA が在宅で勤務できる体制を迅速に整え、工夫をこらして学習相談やガイド記事の作成等を行ったことも特筆に値する。

本件活動については、国際会議におけるベストポスター賞の受賞、図書館振興財団賞の受賞など、国内外の関係機関の高い評価を得ており、成果は確実に社会に発信されている。

以上のことから、本件は学習支援活動において大学図書館の活動を改善・前進させ、図書館と図書館員の役割について広く社会の認識を高めたものと認められ、「国立大学図書館協会賞選考基準」第 4 条第 1 項第 3 号に該当するものとして国立大学図書館協会賞に推薦する。